讀賣新聞

2004年(平成16年)12月7日　火曜日

北海道東部　また震度5強

六日午後十一時十五分ごろ、北海道・根室半島南東沖を震源とする地震があり、厚岸町で震度5強、弟子屈町、釧路町、別海町、更別村で震度5弱を記録した。厚岸町では、男児(9)が割れたガラスで足を切る軽傷を負い、釧路市でも男性が倒れてきたタンスで頭を打つなど、少なくとも五人が病院で手当てを受けた。また、同市では、地震の際に自宅で血圧が上がって具合が悪くなった女性(60)も、救急車で病院に運ばれた。気象庁は地震の直後、北海道太平洋沿岸東部に津波注意報を出したが、まもなく解除した。同庁の観測によると、震源の深さは約四十六キロ、マグニチュード6・9と推定される。同庁では「今回の地震は十一月二十九日の余震とみられる」としている。

「前回より揺れ大きい」

北海道震度5強　一時は津波注意報も

北海道東部を再び「震度5」が襲った。六日深夜に発生した根室半島南東沖を震源とする地震。5強を観測した厚岸町など太平洋沿岸の地域では、先月二十九日に大きな揺れに見舞われたばかりで、一時は津波注意報も出されるなど緊張が走った。＜本文記事1面＞

震度5強を観測した厚岸町では、大きな縦揺れの後、横揺れが三十秒ほど続いた。同町の田辺正保総務課長(53)は「前回の地震よりも揺れは大きく感じた」。役場内では特に被害はなかったが、地震の対応で駆けつけた役場職員の中には、自宅で物が倒れたり、棚から食器が落ちた家もあったという。

また、海沿いに住む住民数十人が津波を警戒して一時、高台に自主避難したが、約三十分後に注意報が解除され、七日午前零時半までに全員が自宅に戻った。

同町の「ホテル五味」では、棚の上から物が落ちるなどしたが、大きな被害はなく、宿泊客にけが人もなかった。支配人の五味卓夫さん(56)は「前回の地震を経験しているので、比較的落ち着いた様子だった」と話していた。

町役場や厚岸消防署で町内を見回ったが、大きな被害は見つかっていないという。

一方、釧路市役所では、地震発生直後から電話がひっきりなしに鳴った。職員は「前回の地震より時間は短かったが、揺れは大きかった」と驚いた様子。総務課には地震発生時、職員が一人だけしかおらず、対応に追われた。

釧路全日空ホテルでは、二百人近くが宿泊中だったが被害客はなく、宿泊客は部屋で待機した。釧路市中心部のJR北海道釧路支社でも、被害はなかった。また、午後八時十五分ごろに羽田行きの最終便が出発した釧路空港では、滑走路を点検した結果、七日の運航への支障はないという。

主な地域の震度は次の通り(震度3以上)。

▽震度4　北海道釧路市、根室市、新冠町、静内町、清里町、足寄町、中標津町、広尾町、浦河町、幕別町、厚真町、芽室町、忠類村▽震度3　札幌市、帯広市、美唄市、富良野市、苫小牧市、北見市、千歳市、伊達市、函館市、三笠市、江別市、岩見沢市、恵庭市、滝川市、青森県むつ市、宮城県涌谷町